



1学期が終わりました。この1学期に子どもたちが登校した日数は、70日間(1年生は66日間)ありました。この1学期間は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行したこともあり、入学式、歓迎遠足、運動会、社会科見学、校区探検、プール学習など、様々な学習活動を予定通り進めることができました。特に運動会では、4年ぶりに1~6年生まで全校児童が運動場に揃い、演技や応援をすることができたことを、嬉しく思っております。

また、1学期は、学校ではホームページの充実を図って参りました。十分ではなかったと思いますが、学校での子どもたちの生活の様子・学習の様子などをお伝えしてきたつもりです。子どもたちの頑張っている様子はもちろん、それを指導している先生方の頑張りの、伝わったのであれば、幸いです。

さらに、1学期は、保護者や地域の方に、学校の教育活動を参観して頂く機会をたくさん設けたり、さらには指導のご支援を頂く声掛けをたくさんさせて頂きました。特に、歓迎集会や運動会のリハーサルでは、たくさんの皆様が参観して下さいました。子どもたちにとっても、大きな励みとなったことと思います。

また、歓迎遠足や校区探検、社会科見学などの校外学習には、引率として多くの保護者・地域の皆様が、徒歩での安全の見守りにご協力下さいました。その他にも、体力テスト・プール監視・花丸先生・体験学習の指導などにおいては、積極的に子どもたちに関わり、教師と一緒に指導して下さいました。本当にありがたかったです。ありがとうございました。

学校からの情報発信や、教育活動の参観や協力の呼びかけは、2学期以降も、より積極的に実施していこうと考えております。2学期以降も、どうぞよろしくお願い致します。

さて、明日からは、子どもたちが楽しみにしていた夏休みです。今年の夏休みは、42日間あります。何よりも、交通事故や水の事故、不審者、熱中症や新型コロナウイルスへの感染などに気を付け、命や安全、健康を守ることを一番に考え、有意義な42日間になることを願っております。また、9月1日(金)に、全員の子ともと元気に再会できることを楽しみにしております。

夏休み時間は、保護者の方が子どもと接する時間が増えます。そこで、毎年紹介している「子どもが育つ魔法の言葉」を、再度、紹介します。ドロシー・ロー・ノルト(Dorothy Law Nolte/1924年1月12日-2005年11月6日/女性)は、アメリカの著述家であり、カウンセラーでもありました。世界的ベストセラー「子どもが育つ魔法の言葉」の著者として有名です。夏休みに多くの時間をお子様と接する際に、何かの参考になれば幸いです。

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる
「かわいい子だ」と言って育つと、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところ
だと思えるようになる

(『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著 石井千春訳 PHP研究所)



「親は子の鏡」と言われることがあります。親を見て、子供は育つ。親は子どもの手本。子どもの健やかな成長のためにとても大切なことを教えているように思います。

最後に、保護者の皆様におかれましては、1学期の期間、学校教育活動へのご理解、ご支援、ご協力を頂き、本当にありがとうございました。2学期も、引き続きよろしくお願い致します。